

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 石川県金沢市立 扇台小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒921-8141
金沢市馬替1-34

E-mail ougidai-e@kanazawa-city.ed.jp

Website <http://cms.kanazawa-city.ed.jp/ougidai-e/>

幼児児童生徒数 男子 210名 女子 190名 合計 400名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「知ろう 伝えよう 私たちのまち！～ 伝統文化と自然 ～」を活動テーマとして、ESDを、人間性を育み、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むことと捉え、ESDの実践を通してつながりを尊重する力の育成を目標とした。

具体的には、「地域の人々とかかわり“暮らす”」「地域の自然から学び“生きる”」という2観点から持続可能な開発のための教育実践に取り組んでいる。

①地域の伝統文化に係わる活動、②生物多様性に係わる活動、③環境に係わる活動、④福祉に係わる活動を行った。

① 地域の伝統文化に係わる活動

金沢市内の様々な伝統文化を継承している方々から、その技を体験させていただき活動を行った。本年度は「書道」「茶道」「和菓子づくり」を行っている方々に来校していただいた。「茶道」では、礼儀を重んじるどころから、相手を大切にする「おもてなし」の心の大切さを学び、「和菓子作り」では四季の変化を取り入れた繊細な技術に感動する様子が見られた。

児童はこれらの活動を通し、伝統文化の継承に尽力している方々が身に付けている技に感動し、そのような技を体得している方へ尊敬の念を持ち、また伝統文化を継承している金沢という地域そのものに愛着を感じることができたようである。また、学んだことを他へ伝える“扇台発信”を行った。

② 生物多様性に係わる教育

本校は長年「ホタルの飼育活動」に取り組んできているが、地域で見られるホタルの数は減少傾向にあった。ところが、地域の方から、「扇台小の目の前の川にもホタルがいる。」ことを教わり、今年度は「扇台の親ポタルから幼虫を育てて、増やす。」をめあてに活動に取り組んだ。

実際には、顕微鏡で観察するくらい小さい幼虫から、エサやり、真夏の水質管理など1日も欠かさず3ヶ月近く世話をし、2cmくらいの大きさまで育てて、放流することができた。

児童は、幼虫の飼育から生命のはかなさ、それでもつなげていく命の重さを感じたようである。そして、放流を通して「ホタルにも人にも住みやすい環境」について考え、ホタルが住みよい環境を作っていくのは自分達であることを自覚し、環境を維持していく必要性を考える機会となった。

③ 環境に係わる学習

校区を流れる高橋川に焦点を当て、その環境や川に関する人々の暮らしの移り変わりを学んだ。児童は、実際に川の様子を観察したり掃除したりするなかで、川の汚れに興味・関心を持った。活動後、川に住む生き物・高橋川の歴史・川の様子・水質・ゴミという5つのグループに分かれて調べる中で、洪水を防ぐための護岸工事によって高橋川が姿を変えたことや、川のきれいさによって住める生き物に違いがあること等を知った。

この活動を通して、身近なことから環境問題について考える良い機会となり、わかったことを4年生や保護者に向けて発信することによって、環境を守るという気持ちを大きくしていた。

④ 福祉に係わる学習

校区の老人ホーム訪問や公民館文化祭に出演するなど、学校内だけでなく地域の様々な場所で演奏活動を行った。

演奏活動の過程では、一人一人の歌声や奏でる楽器の音色が重なり合い、一つの曲として完成させる経験をした。このような協同的な活動経験は、一人ひとりの個が集団にとって重要な存在であると同時に、自分の隣にいる友達もまた同様な存在であることを、活動を通して体で理解する機会になったと考えている。

さらには、演奏を聴いていただく地域の人々との関わりを通し、様々な方々への感謝の気持ちを持つことができた。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)



④ の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、総合的な学習の時間を中心に、環境、生物多様性、地域の伝統文化、文化遺産、人権・平和などにかかわる学習テーマを設定し、地域の特色を活かした活動を教育計画に位置づけている。

また、研究テーマを「進んで学び合う子」とし、批判的に考える力をつけ、進んで参加する態度やつながりを尊重する態度の育成をめざし授業研究会を設定している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

研究主題・副題を「進んで学び合う子～かかわりを活性化する教師の支援」として、学校全体で取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

校内では、年度末に教職員において評価を行っている。また、「学校評議委員会」の場で活動を報告し評価を受けている。

例年継続している活動が多く、地域の理解や協力が得やすくなっていることが成果といえる。課題としては、児童が日々の生活とつなげて具体的な行動を取ろうとする意識を持たせるところまでいかなかったことである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

校内では、「扇台発信」として、学んだことを他学年と交流している。また、授業参観で保護者や地域の方に発信する機会を設けている。その中から、「児童の発表から、改めて地域の良さと、そのために考えていかなければならない課題に気づかされた。」という評価をいただいた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

4年生の活動「ほたるがすみよい環境を考えよう」では、「金沢ホテルの会」や「城谷きずな会」と連携して、ほたるの飼育・放流を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

2月に、市内のユネスコスクールに加盟している小中学校間での交流が予定されていた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

特になし

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

研究テーマを「進んで学び合う子」として、学習指導要領と関連付け、ESDを核とした課題解決型の学習過程を重視した授業研究を行っていく。また、「総合的な学習の時間」の教育課程においても、本校の児童の実態に応じ、育てたい資質や能力を明示し取り組んでいく。